

展覧会名：かげうつし——写映・遷移・伝染——

開催日時：2012年11月3日（土）～25日（日）月休（祝日の場合は翌火曜日休）

開催場所：京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA1, 2

開館時間：11:00-19:00（最終入館 18:45）

主催：京都市立芸術大学、「かげうつし」展実行委員会

参加作家

加納俊輔
高橋耕平
松村有輝
水木 塁
水野勝規

企画

林田 新

企画概要

今日、様々な映像メディアが美術作品に用いられることは珍しくありません。とはいえ、これまで写真とも映画とも趣を異にするそうした作品は、散逸的に展示されることはあっても、それらを広いパースペクティブから捉えなおし、考えを巡らせる機会はそれほど多く無かったように思われます。そこで本展覧会では、映像によって／映像を用いて作品を制作している5人の作家を取り上げ、映像と現実、映像と身体が取り持つ多元的な関係について思いを巡らせていきます。

その手掛かりとなるのが、「うつす／うつる」という、私たちが映像に関して日常的に用いている言葉です。「写す・映す／写る・映る」は、光を何らかの物質に投影する／光が何かに反射する、という光学的な現象を意味しています。しかしよくよく考えてみると、私たちは「うつす／うつる」という言葉をこうした意味でのみ用いているわけではありません。例えば、「うつす／うつる」は「移す・遷す／移る・遷る」という空間的・時間的な移動を意味します。「うつす／うつる」が、そもそも太陽の運行に従って影が移動することを指していたとする説もあり、「写す・映す／写る・映る」と「移す・遷す／移る・遷る」がその語源を同じくすることが伺えます。例えば、日時計は、光学的に盤に「うつる」影が空間的に「うつり」変わることで、時間的な「うつろい」を示します。さらに、「遷都」という言葉が端的に示しているように、「うつす／うつる」は空間的な移動にとどまらず、そこにまつわる権威の移行をも含意します。そうした「うつす／うつる」は、映像とも無関係ではありません。例えば、天皇の肖像、いわゆる御真影は、天皇の身体が写真に「うつる（写る）」のみならず、そのアウラが写真に「うつる（移る）」からこそ価値を持つのです。それに対して、特に悪い現象や性質の移行により他のものに悪い影響を与えることを指して、「伝染る」といったりもします。こうした「うつす／うつる」もまた映像と無関係ではありません。映画「リング」（1998年）が描いていたのは、ビデオ映像を介してそれを見た人の身体に呪いを「うつす」ということでした。また、その映像をダビングすること、すなわち別のビデオに「うつす」ことが呪いを解く鍵となっていたことも重要です。

このように、私たちが映像に関して日常的に用いている「うつす／うつる」という語は、光学現象としての「写る・映る／写す・映す」にとどまることなく、様々な意味を含んでいます。本展覧会で取り上げる作家たちの映像作品もまた、単なる光学現象としての「うつす／うつる」に還元することのできない、多元性を有しています。本展覧会では、彼らの作品を「うつす／うつる」という言葉を鍵として展示することを通じて、映像の持つ多元的な性質を提示していきます。



“layer of my labor” / 2011 / Type C print, marble, lumber

1983 大阪府生まれ
2008 京都嵯峨芸術大学芸術学部造形学科 卒業
2010 京都嵯峨芸術大学大学院芸術研究科 修了

主なグループ展

20 09 「サークルチェンジ」 galler y Den / 大阪
20 08 「one room`08」 京都嵯峨芸術大学クラブ棟 / 京都
「Thinking Print vol.2 もう1つの写真表現」 京都芸術センター / 京都
「Curator`s Eye 20 08 “K ANO work s”」 Galler y Maronie / 京都
「one room 3 “ライフサークル”」 元立誠小学校 / 京都
20 07 「one room」 京都嵯峨芸術大学クラブ棟 / 京都
「Uchu」 galler y Den 58 / 大阪
20 06 「hangable」 FUKUG AN G ALLERY / 大阪

WEB SITE

ht tp://w w w.kanoshunsuke.net

高橋 耕平 | TAKAHASHI Kohei



タイトル未定／2012 / HD VIDEO / 40inch 以上のモニタに出力 or プロジェクション

1977 京都府生まれ
2000 京都精華大学美術学部造形学科版画分野 卒業
20 02 京都精華大学大学院芸術研究科造形専攻 修了

主な個展

20 09 「TAKE - A lit tle ac tion and small accident」 京都造形芸術大学 Galler y R AKU / 京都
20 06 「emotional pic tures」 shin-bi / 京都
20 04 「高橋耕平 展」 O Galler y eyes / 大阪
20 03 「PICK」 信濃橋画廊 / 大阪
20 01 「高橋耕平 展」 信濃橋画廊 / 大阪

主なグループ展

2010 「global connec tions and implications」 Lousiana State Univer sit y / アメリカ
「The same thing or similar things, and an ac tion.」 AD& A galler y / 大阪
「T と T たち—アーティストと、他者としてのアーティスト」 名古屋大学教養教育院プロジェクトギャラリー「clas」 / 愛知
20 09 「feat. huntorama salon show」 muz z program space / 京都
「自宅から美術館へ 田中恒子コレクション」 和歌山県立近代美術館 / 和歌山
20 08 「Small Token, between lit tle stories and public sphere」 Liverpool Street Studios Galler y 他 / オーストラリア
「The same thing or similar things, and an ac tion.」 AD& A galler y / 大阪
20 07 「WORM HOLE episode5, Takuma ISHIKAWA+Kohei TAKAHASHI」 magical ar troom / 東京
「吉原治良賞記念アートプロジェクト20 08 入選展」 大阪府立現代美術センター / 大阪
「3つの共有計画」 大阪府立現代美術センター サテライトs tudio / 大阪
「版という距離」 京都芸術センター / 京都
他多数

WEB SITE

[ht tp://w w w.document sdar tis tes.org/ar tis tes/malphet tes/repro.html](http://www.document-sdartistes.org/artistes/malphettes/repro.html)

松村 有輝 | MATSUMURA Yuuki



<<SG>> 2009

Courtesy of the artist and Take Ninagawa

1981 大阪府生まれ
20 08 京都市立芸術大学美術学部美術科彫刻専攻 卒業
2010 京都市立芸術大学大学院美術研究科彫刻専攻 修了

主な個展

2010 「瀕死の彫刻」 Take Ninagawa / 東京
20 09 「泥の中の金」 Take Ninagawa / 東京
20 07 「松村有輝 展」 TAKEFLOOR 4 04 & 502 / 東京

WEB SITE

http://www.takeninagawa.com/artist/sym/ym_info_1_jp.htm



タイトル未定／2012／写真によるインスタレーション

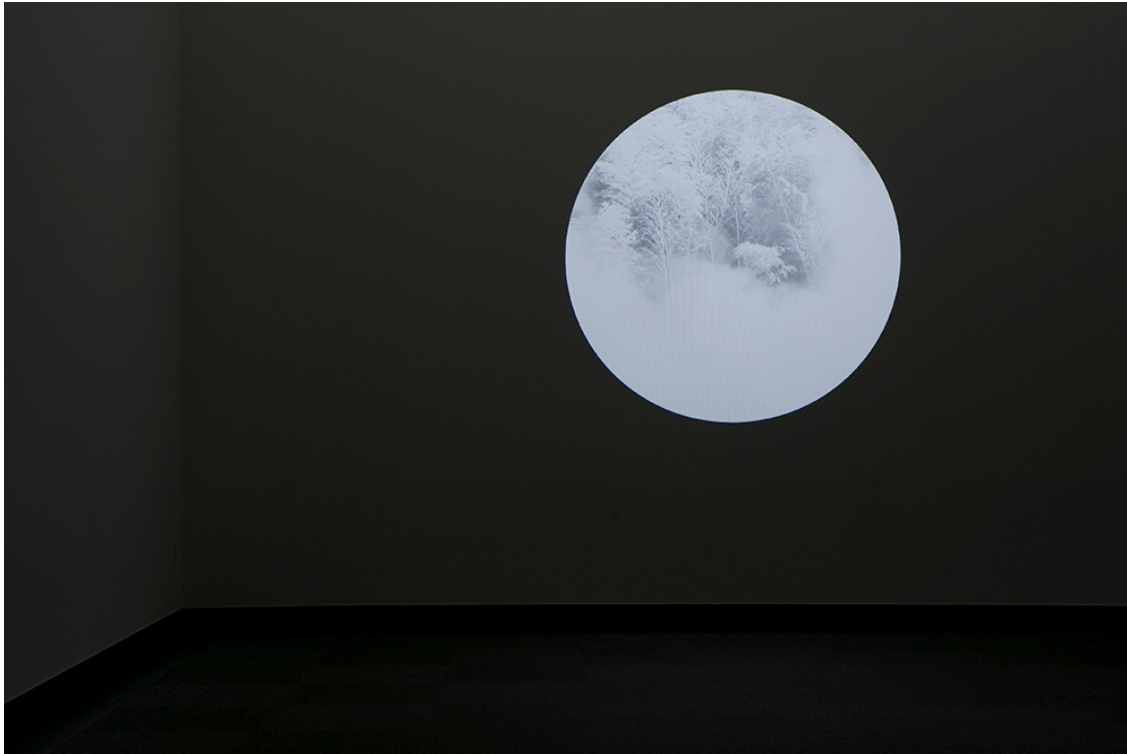
1983 京都府生まれ
20 06 京都市立芸術大学美術学部工芸科漆工専攻 卒業
現在 京都市立芸術大学美術研究科博士課程メディアアート領域 在籍

主なグループ展

2011 「IN TERIM SHOW」 京都市立芸術大学 新研究棟 / 京都
2010 「Turm 3. made in Japan」 Galerie pack of patches / ドイツ
「NEW WORK S #写真のために」 京都市立芸術大学 新研究棟 / 京都
20 09 「わくわくJOBAN -K A SHIWA プロジェクト」 T SC A 他 / 千葉
「ACC A -着地点のない眼差し-」 Antenna A A S / 京都
「now here , nowhere」 京都芸術センター / 京都
20 08 「多摩美術大学 長谷川祐子ゼミ企画展 ダブル クロノス」 Zuishoji Ar t Projec t s / 東京
「sensuous」 AD& A galler y / 大阪
20 07 「水の情景-モネ・大観から現代まで」 横浜美術館 / 神奈川
「P&E 20 07」 ARTCOURT Galler y / 大阪
20 06 「S TAIR S」 C A SO / 大阪
「GINZ A KOMAT SU ART PROJEC T 06」 GINZ A KOMAT SU / 東京
20 05 「liquid space」 法然院 / 京都
他多数

WEB SITE

ht tp://w w w.mizukirui.net



<<light scope>> 2011年 Blu-ray、白黒、サイレント、5分ループ/

撮影：大須賀信一

- 1982 三重県生まれ
2005 名古屋造形芸術大学美術学科総合造形コース卒業
2008 京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻造形構想修了

主な個展

- 2011 愛知県美術館テーマ展 水野勝規 | ライトスケープ (愛知県美術館 展示室6, 名古屋)
2009 水野勝規新作展 -Field Motion- (アートコートギャラリー, 大阪)
Shift Cube vol.4 水野勝規展 (文化フォーラム春日井・交流アトリウム, 名古屋)
水野勝規展 ―グレースケール・ランドスケープ― (INAXギャラリー2, 東京)
2008 solo exhibition/4 artists vol.2 水野勝規展 (ギャラリーキャプション, 岐阜, 2006, 2007)

主なグループ展

- 2011 ルネサンス-京都・映像・メディアアート (京都芸術センター, 京都)
通奏低音 (ギャラリーキャプション, 岐阜)
2010 木藤純子 + 水野勝規展 (ギャラリーキャプション, 岐阜)
中川運河―忘れ去られた年の風景 (愛知芸術文化センター, 名古屋)
panorama―すべてを見ながら、見えていない私たちへ (京都芸術センター, 京都)
Nelle pieghe del mondo (Foro Boario, オリスターノ・イタリア)
2009 Il Dio delle Piccole cose (Casa Masaccio, イタリア)
out of place (旧嵯峨御所大覚寺門跡, 京都)
アート・トルネード―活動する造形主義― (市民ギャラリー矢田, 愛知)
Landscape (ギャラリーキャプション, 岐阜)
2008 パーチャル.リアリティ (ギャラリーアートフェチ, 愛知)
sensuous (AD&A gallery, 大阪)
2007 Move on Asia 2007 (Alternative space LOOP, 韓国・ソウル)
ART UNLV. 2007 (元立誠小学校, 京都)
インディペンデントCASO 2007 (海岸通ギャラリーCASO, 大阪)
水の情景―モネ、大観から現代まで―展 (横浜美術館, 神奈川)
ファン・デ・ナゴヤ美術展2007 ―他者のまなざし、他者へのまなざし― (市民ギャラリー矢田, 愛知)
2006 居心地のよい場所―5 丁目44 番地の脳内旅行― (文化フォーラム春日井, 愛知)